

前胸は方形に近く、兩側圓味を帶ぶ、銹色にて灰黃白色斑を有し、小黑點紋を散在する、そして後縁に灰黃白色毛を並列する。

小楯板はU字形にて銹色を呈し、兩縁は鈍灰黃白色を呈する。

翅鞘は前種と同様橢圓形で、翅底は少しく角張り、後端は細く圓味を帶んでゐる、基部背上兩側に一個宛の隆起を存する、中央部三分の一は廣く灰黃白色の横帶をなし、其前後三分の一宛は銹色である、そして點刻を散在し、褐色點紋をも有してゐる。

脚は短かく、太く銹色を呈し、灰黃白色斑をなし、二爪は黒色である。

腹部は黒色なるも銹色の毛を以て被覆してゐる。

食草は南天の樹である。

分布は本州及九州である。

金華山の蟻類五種に就いて

財團法人名和昆蟲研究所技師

太田幸好

金華山は岐阜市の東南方に位する三百三十餘米の山岳にして、各種の昆蟲多數産すれども、未だ同山の昆蟲相を報告したるものなし、殊に蟻類に於て然り。筆者之を遺憾と思ひ、年來其調査を計畫しつゝ、ありたるも未だに其の期を得るに至らず、然れども今後心して其實現を期せん。

而して茲に取敢へず、嘗て當研究所元技師（現滿洲國熊岳城農事試驗場技師）荻谷正次郎氏が採集して筆者に送附せられたる同山産蟻類並に筆者自から採集せし標本五種に就いて記し、金華山蟻類の一部を闡

明する事とす。

Ord. Hymenoptera 膜翅目

Fam. Formicidae LEACH 蟻科

Sub-Fam. Myrmicinae LEPÉLTIER 一節蟻亞科

(二節蟻亞科の特徴) 小腮鬚及び下唇鬚の環節數は種類に依つて異なる。複眼は各性之を具へ、單眼は雌蟻、雄蟻共有する 職蟻に於ては之を缺く、腹柄節は二節より成り、雌蟻、職蟻には刺を具ふ、蛹は繭を造らず。

Trib. Crenatogasterini: EMERY 尾揚蟻群 (尾揚蟻群の特徴) 觸角十一節よりなる。

Gen. Crenatogaster LUND 尾揚蟻屬 -Ann. Sc.Nat. 1831 132

(尾揚蟻屬の特徴) 頭楯は常に額脊間に充分擴まり、觸角は十一節よりなる。第二腹柄節は脊面平坦なる胃部の脊面と明瞭に區節をなし、腹面は甚だ鋭き凸狀を呈す。

Gen. Acrocoelia MAYR Wien.Z.B.G. 1852 143

1, Crenatogaster (Acrocoelia) laboriosa Smith ヲシロシリアデアリ
-Proc. L. S. Zool v, 1860 109 ♀

(分布) 北海道、本州、四國、九州、朝鮮、獨逸

(金華山採集) 四五頭職蟻 一二、三、一九三一(筆者)

(トビロシリアデアリ職蟻の特徴) 體長 平均三、一耗 最大三、五耗 最小二、五耗

體長 m.m.	番號
2.7	1
3.4	2
3.5	3
3.0	4
3.1	5
3.0	6
3.0	7
3.3	8
3.0	9
3.2	10
3.3	11
3.0	12
3.0	13
2.8	14
3.2	15
3.0	16
2.5	17
3.2	18
3.0	19
3.0	20

體は褐色乃至暗褐色、頭部、腹部は暗褐色、頭部は方形、光澤を具へ、縦皺刻を有し、白色毛生ず後頭は稍彎入す、複眼は黒色、顔面、大腮、頭楯には縦皺刻を具ふ、頭楯には縦皺刻を具ふ、頭楯の皺刻は明瞭にして白色毛生ず、大腮は褐色にして先端は暗赤褐色、觸角は褐色にして十一節より成り、柄節鞭節、第一節及び球棍部は暗褐色、胸部、腹柄節は褐色、前伸腹節には一對の齒狀突起を具へ、第一腹柄節幅廣く、前縁には丸味を有し、中央彎入し、脊面は深き空窩をなす、第二腹柄節は横位せる二個の球體よりなる腹部は幅廣き倒三角形を呈し第一節の中部最も幅廣く光澤を具へ、白色毛生ず、尾端は鋭く上向し淡色の刺を具ふ、刺の長さ二〇m

習性 松、櫻等の樹幹の枯朽部に營巢し、アリツカコホロギの一種 (*Myrmecophilus* sp.) と共棲生活を營み、外敵の襲撃に對する時は尾端を一層上向せしめて刺を以て其れに當らんとする體形を呈す。

Trib. *Tetranorini* EMERY 皺蟻群

(皺蟻群の特徴) 雄蟻の觸角は十節よりなり、職蟻及び雌蟻の觸角は九乃至十二節よりなる、職蟻並に雌蟻の額脊は時に頭部へ達し、觸角の爲め深溝を形成する事あり。

Gen. *Tetranorium* MAYR 皺蟻屬 *Tornie* austr. 151

(皺蟻屬の特徴) 觸角の球棍部は二節以上、頭楯の後縁は縁をなすか或は前部に於て觸角窩は縁取る如く高き隆起線となる、觸角挿入部前部の頭楯の部分は狭まるも一隆起線となるに至らず、觸角は十二節よりなる (雄蟻の觸角は十節)

Gen. *Formica* LINNAEUS 山蟻屬 *Formica*, pt., LINNAEUS : Faun. Suec. P. 426 (1761)

Lasius, pt., FABR. Syst. Piez. P. 415 (1804)

2, *Tetranorium* (*Formica*) *caespitum* LINNAEUS トコロモンアン

Formica *caespitum*, LINN.—Faun. Suec. No. 1726, Syst. Nat. i. 963. 11 ♀

Latr. Hist. Nat. Faun. 251. t. 10. f. 63.

Formica binodis, LINN.—Amoen. Acad. vi. 413. 94, type in cab. Linn. Soc.

Myrmica fuscula, NYL.—Adno. Mon. Form. Bor. Eur. 9:5. 6; Form.

Fr. etd' Alger. 86. 13.

Foerst. Hym. Stud. Form. 56. 29.

Schenck, Besch. Nass. Ameis. 86.

Myrmica impura, FOERST.—Hym. Stud. Form. 48. 22. ♀

Myrmica modesta, FOERST.—Hym. Stud. Form. 49. 23. ♀

Myrmica atratula, SCHENK—Jahrb. Ver. f. Naturk. Nassau. 1852. 91. ♀ nec. ♀

Myrmica caespitum, LATR.—Hist. Nat. Crust. et. Ins. xiii. 259.

Losano, Form. Piem. 327.

Curtis, Trans. Linn. Soc. xxi. 215. 8.

Smith, Brit. Form. 122.

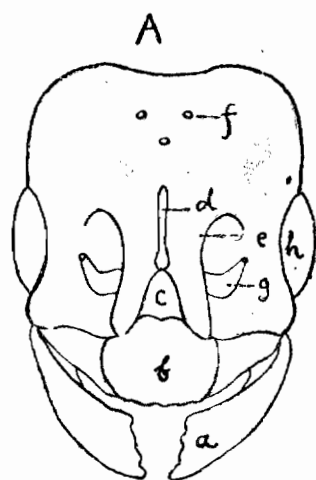
Nyl. Form. Fr. et. d' Alger. 86. 13.

(分布) 北海道、本州、四國、九州、朝鮮、シベリア、中央亞細亞 (W. Karavajew, Ameisen aus Transkaspien und Turkestan. p. 50—52. 1909) ヨーロッパ、アメリカ合衆國。

〔本種の本島に於ける分布區域の北端は寺西暢氏の一九二七年の調査に依れば陸前松嶋を其の極限となし、其以北には産せざる如くなるも矢野宗幹氏 (日本昆蟲圖鑑、三三六頁一九三二年) の記載には北海道をその分布區域に編入せり、筆者目下その正否に就て調査中なれど今は矢野氏に従ふこととせり。〕

蟻の頭部及腹柄節の解剖圖説明

A 頭部



- | | | | | | |
|----|----------------|----|----|------------------|----|
| a. | mandible. | 大腮 | e. | frontal carina. | 額脊 |
| b. | clypeus. | 頭楯 | f. | lateral coellus. | 單眼 |
| c. | frontal area. | 額部 | g. | antenna. | 觸角 |
| d. | frontal groove | 額溝 | h. | eyes. | 複眼 |
- B 腹柄節
- | | | | | | |
|----|----------|-------|----|--------------|-------|
| a. | petiole. | 第一腹柄節 | b. | postpetiole. | 第二腹柄節 |
|----|----------|-------|----|--------------|-------|

青森縣に於ける二、三の昆蟲の分布に就いて

福田彰

從來分布の本州に於て山地にのみ局限されて居る昆蟲は、北國にあつては平地にて普通に發見されることが如き事實が決して寡くない。これは南國の山地と、北國の平地とは、甚だ類似せる氣候である事を證據立てるものである。私は斯の如き種を二、三知り得たので、茲に記して參考に供する。

1, *Parurochela quadrinotata* Reuter 青森縣に産す。

これは本州に於いては、信濃、伯耆大山等の山地にのみ發見され、未だ平地に産するとの記録が無い様であるが、私は青森縣八戸市内(一九三六、一〇、二八)及び、市外にて(一九三五、五、八)捕獲せる二標本を所藏する。該種は又、本縣未記録種と思はれるので茲に報じて置く次第である。